

**児童・生徒の現状・課題**

・新しいことに挑戦したいと意欲的な児童が多い。つまり、まずきの理由をそのままにしてしまう子が多く、間違いを繰り返す児童が多い。また、自己解決する力が弱い。課題に直面した時、自分で考えるより先に人に答えを求める傾向がある。

**学び続ける力を育むための重点目標**

○子供たち自身が、なぜ自分で解決しなければいけないのかの価値付けをし、自己解決また自己調整力の育成をめざす。

**児童生徒調査**

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(6月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	79.8	85	
②問題や解決に取り組んでも上手くいかない時には、上手くいくように違うやり方を試したり、調べ得たりして、粘り強く取り組んでいる。	74.3	78	

**教員調査**

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(6月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	70.6	75	
②問題や課題に取り組んでも上手くいかない時にはどうすればよいか、児童・生徒が自ら方法を選択し行動できるよう、解決方法を示している。	82.4	85	

**具体的な手だて①**

各教科、単元のゴールを示し、学習の計画を立て自分で学習をすすめる中で、自己解決できるようにする。(自己解決できる単元を選択する)

**具体的な手だて②**

つまづくことを想定して、段階的なヒントを出しながら学習に取り組めるようにする。振り返りシートを作成し、間違いの理由を考えられるようにする。

**具体的な手だて③**

ICT(学習者用デジタル教科書、Padlet,Kahoot,Canva 等)や絵、図を用いた資料の掲示を工夫する。資料の中から選択できるようにする。

**校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫**

実践で使用した資料を、お互いに共有できるフォルダを作成し、うまくいったことや課題にコメントすることによって、全教員が参考にできるようにする。

**総括(7月)**

全国学力学習状況調査の結果を見ると、前年度比較して全体的に 10%ほど平均正答率が高まった。しかし思考・判断・表現の数値が低く、自分で考え解決していく力が弱い。授業においても、思考を途中であきらめてしまう場面が見られたり、何につまずいているのか理解しようとしなかったりする様子が見られる。また、授業改革に向けた協議では、自分で問題を読み取る力が弱いのではないかとその声が上がった。そこで、段階的にヒントを出しながら自己解決していけるよう準備していくことを授業改革の中心にしたい。

**総括(1月)**

**児童・生徒の現状・課題**

学習への意欲は高く、課題に取り組むが、できないことがあると諦めてしまったり、次の手だてを取ったりすることができない。どこができていないのか、どうすればよいのかを振り返って考えられない。

**学び続ける力を育むための重点目標**

〇子どもたち自身が、自らの学びを自ら進めるという意識を高め、理解度や進捗を振り返りながら学習できるようにする。

**具体的な手だて①**

学習内容や学習計画を単元の初めに示し、見通しをもたせる。

**具体的な手だて②**

単元の途中や1時間の途中で振り返る場面を設定し、理解度や進捗状況を自ら確認し、修正しながら学習できるようにする。

**具体的な手だて③**

共に学習する仲間、学習する場所、ツールなど、目的に沿って、自ら選択できる場面をどの教科においても毎時間設定する。

**校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫**

- ・研究の Classroom をつくり、日々の実践や意見、相談を日々書き込めるようにする。
- ・管理職の授業観察の際は、指導案を教員にも配布し、授業を互いに見合う機会をつくる。

※肯定的回答の割合(%)

児童生徒調査	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	80.3	85.0	82.5
②学習をしてもできるようにならないときは、学習の方法を工夫している。	72.5	75.0	78.5

教員調査	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	83.3	85.0	90.5
②学習をしてもできるようにならないときは、どうすればよいか、見通しをもたせている。	84.0	85.0	78.5

**総括(5月)**

全国学力学習状況調査の結果を見ても、無回答という児童が10%程度おり、最後まで粘り強く取り組むという力が弱い。それは、授業において、受け身的な授業が多く、児童自身に目標や目的がない状況であることや、自ら学び方を選択しながら学ばせることができていなかったことに課題があるからではないかと教員から声が上がった。そこで、日常の授業において生徒に選択させる場面を設定すること、そのために必要な手だてを教員がしっかり準備することを授業改革の芯に据えた。

**総括(1月)**

教員の意識としては、児童に選択させる場面を設定し、授業改革は推進されている。しかし、児童自身が自ら計画を立てて学習できているという自覚は、教員の意識ほどはない。教科によって、単元によっては、もっと児童に計画を立てさせ、またそれを振り返らせる場面を設定していくことが必要である。分からない問題やできないことをへの対処方法についても手だてが必要である。